

1. 題材名 ハッピーカードをつくろう（工作）

2. 題材について

本題材は、学習指導要領「A表現」における「(2) 感じたことや想像したことを絵や立体、工作に表す」活動である。また、「B鑑賞」における「ア 自分たちの作品や身近な美術作品や製作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じること イ 感じたことや思ったことを話したり、友達と話し合ったりする活動を通して、いろいろな表し方や材料による感じのちがいがわかること」をねらいとして考えた。

本題材「ハッピーカードを作ろう」では、子ども達の感動や体験・思いを材料や表現の仕方を工夫してカードに表し、伝え合うことを楽しむ活動である。

子ども達はこれまでに「紙を立てたらすてきなことが」でカッターナイフを使い、自分の思いを紙を折ったり切ったりしたものを組み合わせて表現することを経験してきている。ここでは、ポップアップの技法を取り入れて、大切な人に「形や色」と「言葉」を組み合わせて伝えたいことを表現させる。ポップアップの技法は、その動きや意外性からカードをもらった人の驚きや喜びを生み出すことができるであろう。

そこで、まず、カードをつくる目的を明らかにし、贈る相手を具体的に思い描かせて活動に入る。どんなカードをもらったら「ハッピー」な気持ちになるかを考えさせ、日頃お世話になっている人や友達への感謝の気持ちを具体的な言葉に表しアイデアスケッチをさせる。次に、ポップアップの技法を理解させるために試作の時間を十分に確保し自由に発想を広げ、仕組みのヒントコーナーを設置して支援する。また、カッターナイフや紙の折り込みを利用し、切り込みの位置や長さを変えたり、山折り谷折りを組み合わせたりして、いろいろな表し方を工夫させたい。紙を開くと飛び出てくるようなポップアップの技法は、一度その仕組みを理解すれば発想がどんどん広がり、つくる喜びを感じるだろう。

素材はカラードフォルムを使う。画用紙と比べてやや厚めで適度な張りがあり、折ったりカッターナイフやはさみで切ったりすることが容易である。また、身近な材料や材質の違う紙などを十分に用意しておき、自由に色や形の組み合わせを考えられるようにしておく。前単元で製作したオリジナル折り紙や身の回りの包装紙・美しいと感じた紙なども用意させ、子ども達が発想を広げながら楽しめるように支援したい。

本時ではこれまで取り組んできたハッピーカードがさらに素敵になるように、色や形を

工夫させたい。そのために友達の作品や用意した資料から発想を広げさせたい。また、カッターナイフを使うので、安全面にも十分に留意して製作できるようにしたい。

素材	用具
自分いろがみ、カラードフォルム、画用紙、和紙、色がみ、セロハン、モール、紙テープ、不織布、木の枝・実などの自然素材、そのほか児童が自分で準備をした素材、写真	カッターナイフ、カッターマット、はさみ、のり、ボンド、接着剤、セロハンテープ、ペン、色鉛筆、クレヨン、絵の具、ぼかし網、スポンジ、布、ひも

3. 児童の実態（男子 18名 女子 17名）

①今までにメッセージカードを作ったり書いたりして、プレゼントをしたことがありますか。（ある 26名 ない 9名）

①で「ある」の児童に

1) メッセージカードを作ることは好きですか（好き 22名）

2) メッセージカードに工夫をしたことがありますか（ある 17名）

②どのようなときにメッセージカードを作ったり書いたりしますか。

父の日、母の日、敬老の日、両親の結婚記念日、家族や友だちの誕生日、年賀状、クリスマスカード、ひなまつり

③誰に対してメッセージカードを作ったり書いたりしますか

お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃん、妹、弟、友だち、一年生、先生

④ポップアップのどんな仕組みを知っていますか。

紙が飛び出てくる、「バツ」と広がる感じの本を見たことがある、プレゼントのカードで見たことがある（31名）

自分で作ることができる（10名→ただし実際の作り方については、紙を折り畳んでいることまではわかるが、その方法までしっかりと回答して作れる児童は一人もいなかった。）

⑤カッターナイフを安全に正しく使うことができますか。

安全面→使い方についてはカッターナイフを握る手と、反対の手の位置関係を理解し、安全に留意して使うことができる児童が多かった。（30名）

誤った使い方をした児童は、5名（刃の先に、抑える手を置く 3名、力を入れすぎて 4名 重複あり）

⑥カッターナイフはどんなところが便利だと感じますか。

まっすぐ切りやすい（10名）、ダンボールなど厚い紙も切れる（3名）、細かい所を切れる（3名）

⑦カッターナイフは刃を折って切れ味を維持することができることを知っていますか。

（力を入れすぎていた児童のカッターナイフは刃がこぼれていたものであった。）

知らない（11名）

知っているが自分ではできない（14名）

自分で折れる（10名）

⑧カッターナイフを使うことが自分では得意だと感じますか。

得意（8名）、どちらとも言えない（13名）、

苦手（14名）

まっすぐに切れない（4名）、抑えている手を切ってしまいそう（14名）、力の加減が難しい（8名）

【考察】 本学級の児童は図工が大好きで明るく前向きな児童が多い。学習に対する意欲も旺盛である。絵をかくことに対しては苦手意識をもっている児童も、工作は好きである。

これまで父の日や母の日、クリスマスなどに、メッセージカードをつくることを経験している。

本題材ではこれまでに多くの子どもたちが行ったことのあるメッセージカードづくりに、ポップアップの技法を取り入れて、今までよりももっと、もらった人に喜んでもらえるカードを作ることができるようにしたい。ポップアップの技法については、仕組みを知っているものの、その折り方、作り方を詳しく知る児童はいなかった。ポップアップを使った作品製作への興味や意欲は高く、仕組みを理解して、試すことが多くできれば習得することができると思う。ヒントコーナーや、試作をすることができる場を用意して、しっかりと身につけさせたい。

心のこもった、仕かけのあるカードは、もらった人に喜びと驚きを与え、カードの作り方や工夫したことを話すことを通して、これまで以上に心が通じ合うことを味わえるはずである。

また、本題材ではカッターナイフを使うことが多いので、基本的な使い方を確認し安全な使い方を身につけさせていきたい。

4. 題材の目標

- 自分の体験や感動、発見、想像をしたことをカードに表して相手に伝えることを楽しむ。(関心・意欲・態度)
- 立体的なカードを製作することで、誰に何をどのような方法で表して、伝えるのかを考えることができる。(発想や構想の能力)
- ポップアップの技法をもとに、材料や表現方法を工夫して、自分なりの表現を工夫して楽しむ。(創造的な技能)
- 友だちの作品を見て、表し方の工夫や違いやよさに気づくことができる。(鑑賞の能力)

5. 評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
自分の体験や感動、感謝の気持ちをカードに表し、相手に伝えることを楽しむ。	感動したこと、想像したこと、表したいこと、伝えたいことを考えて、どのような方法で表すか構想を練る。	表したいことが相手に伝わるように、材料や表現方法を工夫する。	実生活の中で、伝え合うことの喜びを味わい、お互いの表現のよさを味わう。

6. 指導計画（6時間扱い 本時5／6）

時	子どもの活動	時	教師の支援と評価
1	○カードを誰に対して、何を伝えるために作るのかを考える ○カードの大きさ=A5 を実際に触れて知る	0.5	○誰かにメッセージを伝えるカードを作る場合、その相手にカードを通じて何を伝えたいのか、具体的に考えられるように助言する。また、不特定多数へのメッセージ、現実には存在しない相手へのカードを作る場合もそれを認める。
	○次時以降で活用できるよう、ワークシートに記録をしておく	0.5	○具体的に「どんな種類のカードがあるのか」「誰にメッセージを伝えるのか」を分類をしながら、板書をすることで、同じような発想をまとめたり、考えたことを共有したりすることができるようにする。

2 ～	○素材の特徴とポップアップの技法を知る	0.5	○素材とポップアップの技法を紹介する
5	○自分の気持ちが伝わるよう、表し方を工夫して作ろう (本時5 / 6)	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ・カッターナイフやはさみと紙を使って立体的にあらわすポップアップの方法 ・セロハンテープを使って紙を丈夫にして、補強を加えて立たせる方法
6	○ハッピーカードを仕上げる ○友だちの表し方の工夫や、よいなと感じたことについて話し合う	0.5	<ul style="list-style-type: none"> ・木の枝、葉っぱなどの実物を使ってよいこと
		0.5	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の作品は、誰に何を伝えたくて、どんな工夫をしたのかをふりかえり、仕上げ方を考える。 ○「自分の作品で工夫をしたところや、友だちの作品を見て感じたことを話し合いましょう」と投げかける。

7. 本時の学習

(1) 目標

- 大切な人が喜んでくれるようなハッピーカードを仕上げようとしている（関心・意欲・態度）
- カードの形や色、動きを工夫して自分が表したいことを表現することができる（発想や構想の能力）
- 表したいことが相手に伝わるように、表現方法を工夫することができる（創造的な技能）
- 自分や友達作品を見て、形や色・動きの面白さを感じ取ることができる。（鑑賞の能力）

(2) 展開（5／6時間）

学習活動と内容	教師の指導・支援（○）と評価の観点（●）	資料
1. 前時までの活動を振り返り本時の活動を確認する。	○本時のめあてを確認する。	学習カード
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 大事な人が喜んでくれるハッピーカードになるように工夫しよう </div>		
2. どのように工夫をするのか話し合う。 ○台紙の色の組み合わせ方 ・黄色とオレンジだと温かい気持ちになる。 ・黒に青だと強い感じがする。 ○飾り方 ・レースやリボンをつけるとかわいい ・ボタンが目になると面白い ○メッセージの伝え方 ・吹き出しにする ・カードを入れる ・オリジナル折り紙にメッセージをかく ○表紙のふちの飾り方 ・幾何学模様をかく ・спанコールを貼る ・レースを貼る	○一人ひとりのめあてを確認するとともに、参考となる児童作品を紹介したりヒントとなる作品を用意したりして、発想がひろがるように支援する。 ○伝えたい気持ちを色に置き換えて話し合わせたり、大事な人が喜んでくれるような飾り方やメッセージを具体的に考えさせたりするように支援する。	カラーボード フォルム、自分いろいろがみ 画用紙、和紙、カッターナイフ、カッターマット、はさみ、ペン、絵の具、クレヨン、色鉛筆、のり、ボンド、

<p>3. 自分の思いが伝わるように表し方を工夫してつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「カードの表紙がさみしいので、もう少し飾りをつけよう」 ・「メッセージを入れる吹き出しの形を工夫しよう」 ・「仕組みが見えてしまうから、台紙を貼ってみようかな」 ・「大きな飾りをつけて、おばあちゃんが喜ぶようにしよう」 ・「スタンプが多いので、オリジナルの飾りをつくろう」 ・「黒は僕の好きな色だったので、お母さんの好きな花の色を使おう」 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の表現にふさわしい用紙や描画材料を選び、それぞれの材料を効果的に組み合わせて表現するように支援する。 ○素材や技法を自由に選んだり、試したりすることができるように、コーナーに分けておく。 ●もらう相手の気持ちや、自分が表したいことを考えて、形や色、素材のよさを生かして表現を工夫することができる（発想や構想の能力） ○はさみやカッターナイフなどの使い方、紙を立たせるポップアップの仕組みと作り方、色と色の組み合わせ方については資料で確認することができるように掲示しておく。 	<p>掲示資料</p>
<p>4. 作品をお互いに鑑賞する。</p> <p>5. 次時の活動の見通しをもつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○作品をお互いに鑑賞することで工夫しているところや素敵だなと思ったところ発表させる。 ○作品をお互いに鑑賞することで、表現の工夫やおもしろさ、すばらしさに気づくことができるような言葉かけを行う。 	